

第34回 医療用麻薬

医療用麻薬とは、医師より処方されて使用することのできる麻薬で、主に癌の痛みや手術中の鎮痛に使われます（他には、咳止めや下痢止めなどにも使われます）。麻薬は、脳内のオピオイド受容体というところに作用することで効果を発揮します。このため、医療用麻薬は、しばしば「オピオイド」と呼ばれることもあります。オピオイド受容体には鎮痛作用だけでなく、多幸感（精神の高揚や大きな幸福感、満足感）、呼吸抑制などの作用もっており、これが医療用麻薬の副作用や、不適切な乱用につながります。

近年話題になっている、薬物の乱用でよく出てくるキーワードが「耐性」と「依存」です。耐性とは今まで効いていた量では効かなくなることで、依存とは薬物なしではいられない状態のことです。さらに、薬物乱用では薬物の影響により、薬物の効果が切れると離脱症状（退薬症状）と呼ばれる、極めて不快な症状が現れることから、その症状を回避するためにもまた違法薬物を使用してしまうという、負のサイクルに陥ってしまいます。これが違法薬物乱用の恐ろしいところで、行きつく先は致死量以上の耐性を生じて死にいたり、離脱症状や依存の激しさから犯罪に走ったりすることがあるので

す。

しかし、医学的な詳しい説明は書面の都合上割愛しますが、強い痛みを使う場合には、薬物乱用で見られるような依存や耐性は起こらないと言われていています。そのため、手術や癌などの痛みには、安全に使用することができるのです。

それでは、当院に採用されている医療用麻薬についていくつか見ていきましょう。

オキシコンチン：Oxycodone Hydrochloride Continuous Tablet（オキシコドン塩酸塩徐放錠）の下線部を取って

MS コンチン：Morphine Sulfate Continuous Tablet（モルヒネ硫酸塩徐放錠）の下線部を取って。

“Continuous（連続的な、切れ目のない）”とはオキシコンチン、MS コンチン共に、錠剤に特殊な加工がしてあり、体内で主成分が一定量ずつ連続的に放出されることを示しています。

オキノーム：経口用として製剤的に手を加えていない、オキシコドン塩酸塩のノーマルな製剤、オキシコドン+ノーマル（標準、通常）に由来。

オプソ：オピオイド（OPIOID）の液剤（SOLUTION）より

デュロテップ：「Duration:特技」の意味と、さらに貼付剤であるという剤形上の特徴をイメージするものとして命名した。

モルペス：ギリシャ神話の夢の神、眠りの神「Morpheus」から名付けた。

夢の神「Morpheus（モルヘウス）」はモルヒネの名前の由来にもなっています。

どうしても悪いイメージの強い麻薬ですが、適切に使えばこれほど強力な鎮痛薬は他にはありません。ただし、乱用される恐れのある薬物のため、病院内での管理は非常に厳重に定められています。麻薬を取り扱うときは細心の注意をお願いします。

次回は、抗コリン薬です。